

コナジラミ類情報第1号（トマト）

令和3年10月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

一部ほ場で多発しています。発生状況に注意し、防除しましょう。

1 発生状況及び今後の発生予測

9月下旬に行った巡回調査において、成虫寄生枝率が10.6%（平年1.7%、前年2.7%）で過去10年と比較して最も高い状況です。発生ほ場率は28.6%（平年31.3%、前年50.0%）で、過去10年と比較して6番目と平年並です。

名古屋地方気象台9月30日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれており、本種の発生に好適な状況が続く可能性があります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

2 防除対策

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張しましょう。設置してあるハウスについても、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無い点検し、必要に応じて補修しましょう。
- (2) 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺しましょう。
- (3) 表を参考に薬剤防除を徹底しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。
- (4) 花粉交配用昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して農薬を選定しましょう。
- (5) タバココナジラミ（図1）はトマト黄化葉巻病（図2）の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介します。ウイルスの発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。
- (6) トマト黄化葉巻病については、耐病性品種であっても感染源となり得るため、感受性品種と同様に防除を行いましょう。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株